
NEWSLETTER

比較経済体制学会

No.48 July 2014

Contents

- 2014 年度比較経済体制学会第 54 回全国大会を終えて
 - 2014 年度比較経済体制学会第 13 回秋期大会のお知らせ
 - 編集委員会からのお知らせ
 - 比較経済体制学会第 54 回会員総会議事録
 - 新入会員のご紹介
 - 幹事会だより
 - 2013 年度決算報告および 2014 年度学会予算
 - 事務局だより
-

2014 年度比較経済体制学会第 54 回全国大会を終えて

2014 年度の全国大会は、6 月 7 日・8 日の 2 日間の日程で山口大学吉田キャンパスにて開かれました。同キャンパスは山口市内にあり、飛行機または新幹線からバスや在来線を乗り継ぐ必要があります。公共交通の本数が少なく、会員の皆さまにはご不便をおかけしたかと思えます。また、山口への飛行機の便は羽田空港からのものしかないので、特に北海道、東北、北陸の会員の皆さまは長時間をかけてお越しいただいたかと思えます。それにもかかわらず、71 名の会員にお越しいただきました。大変ありがたく、またうれしく思います。

大会初日は、共通論題「ロシア、中央アジア、中国のポリティカル・エコノミー『国家資本主義（権威主義を含む）』をめぐって」に基づく議論が行われました。田畑伸一郎会員を座長に、全体を大きく 3 つに分け、午前から夕方にかけて議論が進められました。まず、午前の部では「ロシア、ソ連、中央アジア」をテーマにした 3 名の報告（上垣彰会員、日臺健雄会員、樋渡雅人会員）がなされました。昼食を挟み、午後の部では「中国」をテーマにした 2 名（丸川知雄会員、梶谷懐会員）の報告が行われました。これらの報告を受け、全体討論では 3 名の討論者（溝端佐登史会員、岡本信広会員、山田鋭夫会員）によりコメ

ントがなされ、フロアからの質疑を含め、活発な議論がなされたと聞いております。

初日の午後は、共通論題に続いて、Jan Hanousek 氏（CERGE-EI）による招待講演がなされました。司会の岩崎一郎会員により論点が提示され、またフロアから多くの質疑がありました。その一つ一つに対して Hanousek 氏から丁寧なリプライがされておりました。

第 2 日目は、3 つの自由論題のセッションが設けられました。午前の自由論題 A は、雲和広会員の司会のもと、鈴木拓会員、徳永昌弘会員による 2 つの「体系的レビュー」の報告があり、中村靖会員による討論が行われました。

午後は研究奨励賞表彰式・会員総会が行われ、その後、分科会形式で 2 会場にて自由論題 B、自由論題 C が行われました。

自由論題 B では、栖原学会員の司会のもと、志田仁完会員、塩谷昌史会員による 2 つの報告が行われ、それに対して野部公一会員の討論が行われました。一方の自由論題 C では、加藤志津子会員の司会のもと、田中宏会員、松澤祐介会員、岩崎一郎会員・菅沼桂子会員（共著）による 3 つの報告がなされました。これに対して池本修一会員、大田英明会員の討論がなされました。

以上、2日間にわたって、共通論題、自由論題のいずれについても非常に活発な議論が行われました。ご来場いただいた会員の皆様に改めて厚く御礼申し上げます。また、大会組織委員の小出秀雄会員、道上真有会員、菅沼桂子会員、中谷勇介会員、志田仁完会員にも数多く助けられました。至らぬところがあったかと思いますが、まずは無事に終えたことに大会組織委員長としてほっとしております。

今回、何名かの会員から30年ほど前に山口大学に来られたという話をうかがいました。今回の大会がまたいつか話題になるようなことがあればよいなと思っております。皆様方のますますのご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

(阿部新・大会組織委員長)

湯田温泉の近くに位置し風光明媚な山口大学にて、素晴らしい大会を開催していただきました。大会開催にご後援くださった山口大学教育学部ならびに開催のご挨拶をいただきました岡村康夫教育学部長に、ここに記して深謝申し上げます。阿部新大会組織委員長の下、久保庭真彰ゼミ出身者の正会員が一丸となって組織下さり、菅沼会員・志田会員も含め多岐にわたりご協力いただきました。大会プログラム委員の方々のご尽力のおかげで、遠方にも関わらずたくさんの会員の皆様からご参加いただきました。大会組織委員、プログラム委員の会員の方々に心より御礼申し上げます。

(事務局)

2014年度比較経済体制学会 第13回秋期大会のお知らせ

—自由論題報告者の募集—

今年度の秋期大会は、**2014年10月25日(土)**に、西武文理大学で開催します。会場の詳細は、次ページをご参照ください。本大会では、「ウクライナ危機とロシア」(仮)と題する共通論題や、ハンガリー著名研究者による招待講演を予定しております。また、分科会方式の自由論題セッションも合わせて編成します。会場の都合上、報告者数に上限がございますので、自由論題セッション報告希望者は、お早めにプログラム委員会へお申し込み下さい。募集要領は、下記の通りです。

自由論題募集要領

下記の要領で、第13回秋期大会の自由論題報告者を募集いたします。報告希望者は**2014年8月31日(日)**までに、プログラム委員会・岩崎へ、Eメールでお申し込みください。

- (1) 募集人数 6名
- (2) 報告時間 25～30分程度
- (3) 論文提出 フル・ペーパー又は報告要旨(A4・5枚程度)を、大会30日前までに御提出頂きます

○第13回秋期大会プログラム委員会

委員長：岩崎一郎(一橋大学) Eメール：iiwasaki[at-mark]ier.hit-u.ac.jp

委員：安達祐子(上智大学)、田畑理一(大阪経済法科大学：学会代表幹事)

○第13回秋期大会組織委員会

委員長：松澤祐介(西武文理大学) Eメール：matsuzawa[at-mark]bunri-c.ac.jp

委員：志田仁完(一橋大学)、中谷勇介(西武文理大学)、日臺健雄(埼玉学園大学)

2014 年度比較経済体制学会第 13 回秋期大会
2014 年 10 月 25 日（土）西武文理大学

会場：西武文理大学 2 号館

住所：〒350-1336 埼玉県狭山市柏原新田311-1

大学ホームページ：<http://www.bunri-c.ac.jp/univ/>



西武新宿線

狭山市駅（特急停車駅）下車

西武バス 柏原ニュータウン行き 約 20 分

「西武柏原ニュータウン」下車 徒歩 10 分

または

新狭山駅（急行，準急，各停停車駅）

西武バス かすみ野または柏原ニュータウン行き

約 8 分「西武柏原ニュータウン」下車 徒歩 10 分

- (注) 1. スクールバスはご利用いただけません。
2. JR 川越線笠幡駅からの西武バスは 7:51 発の次は 18:15 まで便がありません。



編集委員会からのお知らせ

学会機関誌『比較経済研究』（英語名称：Japanese Journal of Comparative Economics）は、レフェリー制投稿誌として、年2回発行しています。学会幹事会の委嘱により、第52巻及び第53巻は、雲和広編集委員長（一橋大学）、白石麻保副編集委員長（北九州市立大学）、Kan Viktoriya 編集委員（帝京大学）、杉浦史和編集委員（帝京大学）、林裕明編集委員（島根県立大学）、安達祐子編集委員（上智大学）の6名が、その編集を担当します。どうぞよろしくお願いいたします。

旧編集委員会が担当した51巻2号が先日刊行され、会員の皆様に発送されました。その内容は、次の通りです。

特集：比較経済へのメタ分析的・空間的接近
岩崎一郎・徳永昌弘「外国直接投資と生産性波及効果：移行経済研究のメタ分析」
岡本信広「中国とアジアの経済統合：国際産業連関モデルからのアプローチ」

研究ノート

文浩一「北朝鮮当局公表資料の学問的利用の可能性について：拙著に対する黒坂真教授の書評へのコメント」

書評

徳永昌弘『20世紀ロシアの開発と環境—政治経済学的分析』（片山博文）

加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫『21世紀の中国経済篇：国家資本主義の光と影』（王京浜）

藤原克美『移行期ロシアの繊維産業：ソビエト軽工業の崩壊と再編』（田中宏）

森岡真史『ボリス・ブルツクスの生涯と思想』（塩谷昌史）

大田英明『資本規制の経済学』（杉浦史和）

投稿論文も鋭意募集中です。

1. 募集原稿は、論文（400字×55枚以内）、研究ノート（400字×45枚以内）、書評（400字×17枚以内）の3種です。図表も字数制限の対象となります。

2. 第52巻第1号（2015年1月刊行予定）への投稿は、2014年8月31日に締め切ります。第52巻第2号（2015年6月刊行予定）の投稿〆切は、2014年12月末の予定です。

3. 原稿は、各号担当編集委員に、電子メール添付ファイルでお送りください。第52巻第1号は、Kan 編集委員 (kviktoriya<at>mark>gmail.com)が、第52巻第2号は、杉浦編集委員 (fsugiura<at>mark>main.teikyo-u.ac.jp)が、それぞれ担当します。

4. 原稿執筆の際には、「学会機関誌投稿・執筆要綱」をよく読み、厳密に準拠してください。上記字数制限の外にも、様々な注意点があります。形式がずさんな原稿は、受け取りを拒否します。これは、経費節約のため、編集委員作業負担軽減のため、とても大事なことです。ご理解とご協力をお願いします。

5. 採否は、編集委員会による第一次審査、匿名審査員による第二次審査を経て、決定します。通常、最終決定までに3~4カ月を要します。

6. 当学会に連続2年度以上在籍している若手研究者（院生会員及び年齢40歳以下の正会員）が単独執筆した機関紙掲載論文は、原則として、その全てが自動的に「研究奨励賞」の候補対象となります。応募資格を持つ会員の皆様は、とくに奮ってご投稿ください。

ご不明の点は、雲編集委員長 (kumo<at>mark>ier.hit-u.ac.jp) または各号担当編集委員まで、お問い合わせください。

(学会機関誌編集委員会)

第54回大会会員総会

総会に先立ち、2014年2月に逝去された上原一慶会員に対する黙祷をささげた後、第6回比較経済体制学会研究奨励賞授与式を行いました。田畑理一代表幹事よりビクトリヤ・カン会員に賞状と副賞の図書カード5万円分が授与されました。

会員総会議長に大津定美会員が選出され、総会が開催されました。総会は、配布資料とプロジェクト資料にもとづいて進められました。以下、報告事項と審議事項に分けて記載します。

報告事項

入会者7名と退会者6名の報告が事務局より行われました。続いて、事務局が会務報告を行いました。2013年6月に発行される会員名簿の発行が遅れたことについて事務局より説明され、会員情報をアップデートしたうえで、2014年6月末に刊行することが了承されました。

次に、比較経済体制学会共催開催となる国際大会について、①Pacific Rim コンファレンスについて（2014年5月14-17日開催）が無事開催されたこと、②第1回比較経済世界大会（2015年6月25-27日ローマにて開催）の案内（会員MLにてEACES/newsletter/69/p.12（4/9/2014配信））、Call For Papersが以下のウェブサイトで公開・募集中であることが事務局より報告され、了承されました。

[\(http://host.uniroma3.it/eventi/worldcongress/\)](http://host.uniroma3.it/eventi/worldcongress/)

③ ICCEES2015 幕張大会について、6月15日まで報告応募締切が延長されたこと、比較経済体制学会 ICCEES 日本大会対策チームを編成し、上垣彰幹事の対策チーム長の下、各専門分野を担当する会員を配置した「比較経済体制学会 ICCEES 日本大会支援スキーム」（総勢13名）を編成し、プロポーザル処理に当たることが報告され、了承されました。

日本経済学会連合より海外派遣・会議補助の公募が例年通り公示され、ニューズレターにより事務局から会員宛に連絡したこと、第一次締め切りの応募は2月末日であったが応募者はなく、第二次締め切りは6月20日であるため、

応募希望者は事務局まで問い合わせしてほしい旨、事務局より説明されました。

日本学術会議、経済学の参照基準検討分科会委員長岩本康志氏（東大）から、分科会原案に対する各学会からの意見募集の依頼について、（2013年12月末、2014年3月末の2回）会員MLを通じて会員の方々の個人意見を募集したところ、意見表明はいずれもなかったことが報告されました。

学会機関誌編集について、最新号が近々刊行・発送されること、J-STAGE ウェブアクセス数が増加傾向にあること、前編集委員会の業務が今号で終了したことが報告されるとともにその労をねぎらう発言がありました。さらに6日の幹事会にて新編集委員会が承認、編成されたことが報告されました。また、同じく6日の幹事会で承認された学会機関誌電子版アップロード作業の業者委託について雲和広幹事・新編集委員長より、次号からの同作業の業者委託と、同作業の委託に伴う編集補助人員の減員について説明があり、了承されました。

次に、2014年秋期大会（西武文理大学）の準備が順調に進んでいる旨、事務局より報告されました。2015年全国大会開催については、審議事項となったため、審議事項に記載します。

最後に、その他の報告事項として、①青木昌彦著『青木昌彦の経済学入門』ちくま新書、2014年3月、第2章（pp.70-96）「制度のシュンペーター的革新と革新制度」に、『比較経済体制学会年報』2005年1号、2004年6月4日に行われた比較経済体制学会／国際シュンペーター・ソサイアティでの講演が抄録されたこと、②経済セミナー2014年6・7月号（5月27日発売）_学会・研究会案内にて、比較経済体制学会全国大会（山口大学）開催案内掲載されたことが、事務局より報告されました。

（事務局）

審議事項

2013 年度決算について、6 日の幹事会で確認された微修正の点も踏まえて承認され、後日改めて会計監査を経たものを最終決算とすることが、全会一致で承認されました。続いて 2014 年予算が全会一致で承認されました。

次に、2015 年度研究集会の開催と 2015 年全国大会開催校について、第 1 回比較経済世界大会（ローマ）が 2015 年 6 月 25-27 日に開催され、ICCEES 世界大会（幕張）が 2015 年 8 月 3 日—8 日に開催され、例年の比較経済体制学会全国大会が開催される 2015 年 6 月開催前後に、当学会が共催する国際大会が集中し、学会員の多くが大会に参加するため、2015 年度に限り臨時措置として秋期大会を開催せずに全国大会を 2015 年の秋に開催することが田畑理一代表幹事より提案され、全会一致で承認されました。

また、2015 年秋の全国大会の開催校について、日本大学経済学部が開催の意向を示してくださっていることから、栖原学幹事に大会組織委員長を委嘱し日本大学経済学部にて 2015 年秋に全国大会を開催することが事務局より提案され、全会一致で承認されました。

さらに、2015 年秋に全国大会を開催することに伴い、現・役員任期の延長と次期役員任期の短縮ならびに 2015 年度予算の暫定執行について、事務局より提案され、ともに全会一致で承認されました。承認された内容は、「比較経済体制学会会則」（役員）第 6 条により役員任期は 2 年であるが、2015 年度研究集会の開催変更に伴う臨時措置として、現・役員任期を 2013 年 6 月（全国大会）～2015 年秋（全国大会）までの約 2 年 4 か月とし、次期役員任期を 2015 年秋（全国大会）～ 2017 年 6 月（全国大会）までの約 1 年 8 か月とすること、2015 年度の予算期間は 2015 年 4 月 1 日 ～ 2016 年 3 月 31 日であるが、2015 年度予算の承認時期が 2015 年 6 月から 2015 年秋の全国大会開催時に延期されることになるため、2015 年 4 月 1 日～2015 年秋までの間（約 7 か月間）の学会運営に関する予算執行を暫定的に承認するというものである。

(事務局)

2015 年度比較経済体制学会第 55 回全国大会は 2015 年秋に開催いたします！

新入会員のご紹介

2014 年度新入会員の皆様をご紹介します。新入会員の皆さんの加入により、2014 年度会員総数は 244 名となりました（6 月 8 日現在）。

張 英莉	埼玉学園大学経済経営学部
相場 大樹	一橋大学大学院経済学研究科(院生)
矢野 剛	京都大学大学院経済学研究科
松尾 総一郎	三菱総研 DCS 株式会社
高橋 宏幸	久留米大学商学部
山脇 大	京都大学大学院経済学研究科(院生)
山崎 幸	早稲田大学大学院社会科学研究所(院生)

(敬称略・受付順)

(事務局)

幹事会だより

大会前日の平成26年6月6日、東横イン新山口駅新幹線口1階ロビー内会議室にて第54回大会幹事会が開催されました。前回幹事会議事録を確認したのち、報告事項に入りました。事務局から会務報告・退会者の確認、2014年秋期大会開催準備状況と、大会組織委員長松澤祐介幹事、中谷勇介組織委員（西武文理大学）、日臺健雄組織委員（埼玉学園大学）、志田仁完組織委員（一橋大学）が就任することが報告され、了承されました。その他、総会報告事項と同様の報告、了承ができました。

続いて審議事項に入りました。新入会員7名について堀江メンバーシップ担当幹事より説明があり、承認されました。2013年度の決算について並びに2014年度の予算について岩崎会計担当幹事より説明があり、ともに承認されました。2013年度決算審議の際に発覚した微修正が必要な箇所について、修正した決算書を後日改めて会計幹事の監査を受けたうえで2013年度最終決算書とする手続きが、幹事会一任で承認されました。

なお、2014年度予算審議の際に、会員数が減少傾向にあること、繰越金の減少傾向を鑑みると、今後の学会予算運営について近い将来、何らかの改善策が必要となることが幹事会で確認されました。

次期編集委員会について、学会機関誌『比較経済研究』第52巻、第53巻の編集委員長を雲和広幹事に委嘱することが承認され、また雲次期編集委員長の下、白石麻保副編集委員長（北九州市立大学）、Kan Viktoriya 編集委員（帝京大学）、杉浦史和編集委員（帝京大学）、林裕明編集委員（島根県立大学）、安達祐子編集委員（上智大学）の6名ならびに、柳学洙編集補助（一橋大学・院）が、編集委員会を担当することが了承されました。

また、学会機関誌電子版アップロード作業の業者委託とこれに伴う編集補助の減員について、雲次期編集委員長より提案され、業者委託の利便性と見積額の妥当性（二つの号で約85000円前後）から、同作業の業者委託とこれに伴う編集補助の減員が承認されました。

次に、2014年度秋期大会プログラム委員長を岩崎一郎幹事に委嘱することが承認され、また岩崎一郎プログラム委員長より安達祐子会員、田畑理一代表幹事がプログラム委員に就任することが提案され、幹事会で了承されました。

前事務局・幹事会より申し送り事項であった「比較経済体制学会会則」（役員）第6条第1項の「重任」を「兼任」と改正することについて審議した結果、「重任」とは役員として任期が終わったのち、同じ職務・任務に続いて就くこと、すなわち、幹事（2期まで）、会計幹事（4期まで）、幹事（2期まで）と連続して務めることが可能という意味であることが確認され、本幹事会では会則第6条第1項の改正は不要であるとの結論に達しました。

2015年度研究集会の開催について、（詳細は総会議事録と同じ）2015年度に限って、2015年6月予定の全国大会を2015年秋に開催し、秋期大会を開催しないことが事務局より提案され、幹事会で承認されました。

2015年全国大会開催については、2015年秋に日本大学経済学部にて全国大会を開催し、大会組織委員長を栖原学幹事に委嘱することが事務局より提案され、幹事会で承認されました。

2015年秋に全国大会を開催することに伴い、現・役員任期の延長と次期役員任期の短縮ならびに2015年度予算の暫定執行について、幹事会で提案し、承認されました。本件については、8日に開催する会員総会の審議事項とすることも幹事会で承認されました（承認された内容については、「会員総会議事録審議事項」に記載）。

（事務局）

2013 年度決算報告および 2014 年度学会予算

*2013 年度決算書（修正後，会計監査済み最終決算書）は以下のとおりです。

<省略>

*2014 年度学会予算は以下のとおりです。

<省略>

事務局だより

ニューズレターNO.48 をお届けします。田畑理一代表幹事のもとでの事務局運営も折り返し地点に至りました。この間、幹事の方々、多くの会員のみなさまのご助力のおかげでなんとか一年を乗り切りました。

学会会員名簿の発行が遅れましたが 2014 年 6 月末に刊行され、皆様のお手元に発送されました。記載の情報に変更がある会員の方は、メンバーシップ担当堀江幹事までご連絡ください。

2014 年 10 月の秋期大会のお知らせと自由論題応募を、このニューズレターに掲載しています。秋期大会成功に向けて、多くの方々の自由論題応募と秋期大会ご参加をお願い申し上げます。

また、今年度より新しい編集委員体制で学会機関誌の編集が始まりました。学会機関誌の発展もまた、みなさまの積極的な投稿が礎となります。

2014 年度も事務局一同、力を合わせ会務につとめます。皆様のご理解とご助力とを何卒お願い申し上げます。

総会議事録にもありますように、2015 年度の比較経済体制学会全国大会は 2015 年秋に日本大学経済学部にて開催されます。これに伴い 2015 年度秋期大会は開催されません。2015 年度は次の二つの共催開催となる国際大会、2015 年 6 月ローマで開催される第 1 回比較経済世界大会、2015 年 8 月幕張で開催される ICCEES 日本大会へのご参加とならびに、2015 年秋の比較経済体制学会全国大会へのご参加をご検討くださいますよう会員の皆様をお願い申し上げます。

(事務局)

ニューズレターNO.48

2014 年 07 月 07 日発行

比較経済体制学会事務局

総括担当：新潟大学経済学部 道上真有
〒950-2181 新潟市西区五十嵐 2 の町 8050
Phone & Fax 025-262-6518
E-mail: michigami (at mark) econ.niigata-u.ac.jp

会計担当：一橋大学経済研究所 岩崎一郎
E-mail: iiwasaki (at mark) ier.hit-u.ac.jp
メンバーシップ管理/Web サイト担当：
富山大学極東地域研究センター 堀江典生
E-mail: horie (at mark) eco.u-toyama.ac.jp